

Day

1

タイトル

5. 視察(SALE市ごみ中継施設、Oum Azza 廃棄物処分・再資源化センター)

Sale市の中継基地は、計量台、廃棄物の積み降ろしエリア、大型トラックやトラクタートレーラーへの積載コンベアといった機器で構成されたシンプルなもので、圧縮のための機械設備などは備えていない。

Oum Azza廃棄物処分・再資源化センターは、民間会社のPIZZORNOが20年間契約にて運営するもので、毎日2,000トンの廃棄物が処理されている。埋立地は、ボトムライナー、浸出水集水管、浸出水処理施設、バイオガス除去管、バイオガス処理プラント(バイオガスフレアプラント)などの適切な設備を備えた衛生埋立処分場である。処分場ではごみが転圧後、覆土されている。

要約

敷地内に搬入される廃棄物のほとんどは埋め立て処分されるが、その一部はリサイクル処理されている。積み下ろしされた廃棄物はトロンメルによる機械選別と手選別により、プラスチック、紙、金属とその他のごみに分別される。トロンメルから出る残渣は埋立地に送られ、手選別工程の残渣は別の民間企業 Geocycleが運営する処理施設に運ばれる。

Geocycleの施設では、残渣は高さ4m×幅4m×長さ25mに積み上げられ、床から出る空気によって乾燥される。残渣は主にプラスチックと紙だが、有機物も約30%含み、最初約50%の水分を含むが、15日後には25%に低下する。乾燥した生成物は、いわゆる、ごみ由来燃料であるRDF或いはSRFとして3500kcal/kgの発熱量を有し、施設から約100km離れたセメントキルンに供給されている。

#VALUE!